

展　 望

日本信頼性学会誌原稿作成用テンプレート

A Template for the Contribution to Journal of REAJ

信頼　太郎

Taro SHINRAI



**概　要**

解説・展望の場合は480字を目安とする．他の原稿は省略／少ない字数も可．記入例：本稿では，日本信頼性学会誌に解説・展望等を寄稿する際の原稿執筆要綱を説明するとともに，Microsoft Wordの操作に慣れている人を対象として，執筆要綱に準拠したテンプレートを示す．

# 1．はじめに

日本信頼性学会誌に，展望・解説・巻頭言・信頼性教室・サロン・開催行事報告などの原稿を寄稿する際の執筆要綱を説明するとともに，この執筆要綱に準拠した文書設定を予め設定したMicrosoft Word形式ファイルを提供する．

展望・解説は，2段組にて原則偶数ページ（8ページが望ましい）とする．目次立ては，概ね， 1) 題名，2) 著者名，3) 概要，4) 本文，5) 参考文献，6) 著者名の読みと所属（ひらがな／所属），7) 著者紹介文と顔写真 の7項目である．信頼性基礎講座・サロン・行事報告についても，上記の目次立てに従い（ただし，概要は省略可），2段組にて，できるだけ偶数ページとする．巻頭言は，題名，著者名，本文（目次構成無し），顔写真の構成で，2段組2ページ以内とする．

# 2．題名・著者名・概要

　題名・著者名・概要は，1段組で行数だけを指定し，1ページ45行とする．Wordのページ設定ダイアログ上（ファイル → ページ設定にて開ける）で，このセクションを，1段組，行送り15.5 ptと設定してもよい．

題名・著者名・概要は本テンプレートで用いているスタイル（題名と著者名は題名スタイル，概要は要旨スタイル）に従うこと。

題名は，和文（ﾌｫﾝﾄ：MS明朝，ｻｲｽﾞ：15 pt）と英文（ﾌｫﾝﾄ：Times New Roman，ｻｲｽﾞ：15 pt）で表記する．同様に，著者名も，和文（ﾌｫﾝﾄ：MS明朝，ｻｲｽﾞ：15 pt）と英文（ﾌｫﾝﾄ：Times New Roman，ｻｲｽﾞ：15 pt）を表記する．共著者がある場合は列記する．英文はローマ字表記とする．題名と著者名はセンタリングする．

概要は，展望・解説の場合は480字程度を目安とする．展望・解説以外の原稿では，省略又は少ない字数でもよい．「概 要」のタイトルは（ﾌｫﾝﾄ：MSｺﾞｼｯｸ，ｻｲｽﾞ：11 pt）で記し，文章は（ﾌｫﾝﾄ：MS明朝，ｻｲｽﾞ：10 pt，左右7mmのインデント）にて，改行は行わず，1つのパラグラフとする．

# 3．本文

本文の体裁は，本テンプレートで用いている標準スタイルに従うこと．すなわち2段組，片段 23文字，1ページ 45行，両端揃えとする．Wordのページ設定ダイアログ上で，このセクションを，2段組，字送り10．15 pt，行送り15．5 ptと設定してもよい．

和文は（ﾌｫﾝﾄ：MS明朝，ｻｲｽﾞ：10 pt）で，また，数字と英文は半角にて（ﾌｫﾝﾄ：Times New Roman，ｻｲｽﾞ：10 pt）で記述する．

各章のタイトルは，前章の文末より1行空け，（太字，ﾌｫﾝﾄ：MSｺﾞｼｯｸ，ｻｲｽﾞ：12 pt）にて記し，タイトルより1行空けて章の文章を開始する．第1章は「1．はじめに」，最終章は「N．おわりに」とするのが望ましいがこれに限らない．なお，謝辞を記す場合は，章を設けず，最終章末尾に別パラグラフで追記する．

# 4．図表及び数式

図表は，和文にて記述する．出現順に通し番号を付し，文中で引用する際は「図1」「表1」と表記する．片段幅に収まるサイズを基本とするが，左右への段またがり又は全面にわたってもよい．

図のタイトルは「図1　〇〇〇」の形式で図の下部に，また，表のタイトルは「表1　〇〇〇」の形式で表の上部に，それぞれ付与する．本文中の引用箇所とあまり離れない位置に，本文文章より上下に1行ずつ空けて挿入することを基本とするが，これに限らない．参考として，日本信頼性学会のロゴマークを図1に示す．



図1　日本信頼性学会ロゴマーク

　数式を記述する場合は，文章に対して上下に0．5行ずつ空け，式自体を可能な限りセンタリングする．さらに，出現順に通して式番号を右揃えにて記す．すでに記述した式を文中にて引用する場合は「式1」のように表記する．なお，複数行にわたる等の場合には，本学会の研究論文原稿作成用テンプレートを参照されたい．

# 5． 用紙サイズ

　用紙サイズはA4とする．余白マージンとして，上：21．2mm，下：29．3mm，左右：17mmをとる．2段組の段間は3文字とする．

# 参考文献

参考文献を引用する場合は，引用箇所に上付き番号1)で示す．出現順にて通し番号を付し，下記の体裁にて列記する2)．

表示例：

1. 著者名：文献題名，掲載誌名，巻，号，pp． aa-bb（掲載時期 西暦．月）
2. 著者名：書名，出版社名，pp.xx-yy（出版時期 西暦．月）

（しんらい　たろう／〇×◇研究所）

　　　　　　　　　 著者の写真

信頼　太郎

1995年3月〇〇〇大学大学院修士課程修了．1998年4月×××大学工学部機械工学科助手を経て，2001年4月から現職．産業機械設備のフェールセーフ技術・安全制御技術の研究に従事．工学博士．日本信頼性学会，日本機械学会，日本ロボット学会他会員．日本信頼性学会理事（総務委員長，会計委員長，編集委員）